

作品タイトル

中山間地域の高齢者が安心して暮らせるサービスについて

グループ名

NPO 法人 庄実アグリカンパニー

白幡 直也 上西 倫太郎

(広島県立庄原実業高等学校)

1 はじめに

私たちの住む庄原市は、広島県の北部に位置し、平成の大合併で一市五町が一つになり、西日本一広い面積を誇る市となりました。全国のどこの地域にもある代表的な中山間地域で、過疎化、高齢化率の高い地域です。

私たちが通う庄原実業高校は農業高校で、イネや野菜、果樹、草花、乳牛、和牛、鶏について深く学ぶ生物生産学科、農産物の加工を学ぶ食品工学科、地域の景観や大気、土壌、水質等について学習する環境工学科、調理、被服、保育、看護、福祉について学ぶ生活科学科の4つの学科で構成された学校です。これまでに、4つの学科の学びには差はありますが、農業に関連した様々な課題について学習してきました。耕作放棄地の増加やそれに伴う水田や畑地の病害虫の増加、イノシシやシカ等の獣害の増加など農山村をとりまく状況は厳しいことも知りました。

このような環境で、今後、地域の高齢者がどのように暮らしていけばいいのか、逆に私たちのような若い世代がどのように対応していけばいいのかを模索し、考えたシステムを提案します。全国的な中山間地域に住む高齢者の課題解決につながるのではと思ひ応募しました。

2 文部科学省指定「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール」事業から

私たちが入学と同時に、文部科学省から指定された「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール」事業が始まりました。1年次に科目「地域農業探究」という授業で、地域の方々からの聞き取りを通し、庄原市内の素晴らしいところを発見しました。また、様々な地域資源（含む観光地）のあることが分かり、人を呼び込む工夫や努力がなされていることも分かりました。比婆道後帝釈国定公園内にある帝釈峡、比婆山、道後山、吾妻山等の自然資源、国立備北丘陵公園、上野池、スキー場、キャンプ場、温泉など人工的に造成されたものも含めると、多くの観光資源があることを再認識しました。春はお花見、夏はハイキング、キャンプ、秋は紅葉狩り、冬はスキー・スノーボードなどのウインタースポーツと1年間を通し、アウトドア活動を楽しめる地域でもあり、自然豊かな地域であることも分かりました。一覧表（表1）の中には、観光資源だけではなく、農業経営者をはじめ農業法人、食品会社、レストラン、地域資源を活かした企業など様々な分野で活躍されているプロフェッショナルの方を訪ね、多くのことを教わりました。

一方、聞き取りをしていく中で過疎化や高齢化が大きな課題であることを改めて認識しました。市内にある4カ所の農産物直売所を持つ道の駅等では、冬場にお客が少ない、逆に夏場にお客が多いが販売スタッフが不足ということを知りました。人がいないために販売スタッフの不足が生じ、ビジネスのチャンスを失う状況も発生しているようです。

さらに、聞き取り先の方は高齢者が多く、聞き取りを進めていくうちに若い世代に期待していることや自分の身の回りのことでやってもらいたいことがたくさんあることを知りました。具体的には、地域で農業をされている方は、田畑周辺の草刈り、農繁期（田植え、稲刈り、野菜等の収穫）の手助けのほか、買い物、掃除、倉庫の片付け、庭の草木の手入れ、墓掃除など、様々な要望を持っておられます。

これらのことから、若い世代が何かできないかと2人で思うようになり、次のような組織と活動を考えました。

り振りをし、高齢者の要望にマッチングさせます。もちろん、本校の卒業生に限定するわけではなく、地域におられる60歳未満の方たちも対象としています。さらに、シルバー人材センターの人たちも巻き込めばと思います。60歳未満の方たちは定職を持っておられるので、時期、時間的にマッチングするのが難しい場合があります。このようなときの助っ人をお願いするという考えもあると思います。

(2) 財源

運営のための財源は、第1は直接高齢者からいただきます。年金生活をされているので、なかなか多くのことを依頼しにくいと考えられるので、金額的には安くしなければと思います。

次に、東京や大阪などの都市部で生活している高齢者の子や、あまり期待できないが孫からの依頼による収入によります。高齢者の子ども世代は、盆や正月には帰省をする方が多いのですが、帰られない年もあり、父母に申し訳ない思いの方々も多くいるものと考えられます。そこで、都市部にいる高齢者の子ども世代も組織し、父母にやっていただきたいことを受け付けます。このような対応を取ることで、子どもとして少しは後ろめたい気持ちを緩和できるので、需要があると考えます。親も方も気になっていたことがやってもらえ、満足されるし、電話等で、親子の会話も生まれるのではと想像できます。

さらに市役所等の行政を巻き込んだ「ふるさと納税」の返礼に、高齢者の行ってもらいたいことをに対応するチケットを送るというシステムの導入です。都会に住まわれている子ども世代の人が納税により得られたチケットを御両親に送ることで、子どもの依頼による対応と同様の効果があり、有効であると考えます。

(3) 請負内容の例

請負内容の例として、次のようなものが考えられます。

- ・農作業：(草刈り、田植え、稲刈り、農業機械の洗浄、修理。野菜等の収穫調整。)
- ・介護：(自分で歩ける程度の健康状態の人を対象に外出など、暮らしの中の楽しみをサポート。食事や身の回りの手伝い、部屋の掃除など。)
- ・整理：(部屋の中の片づけ、不要物の廃棄、蔵の整理など。)
- ・雪かき：(道路や屋根の上。)

このように、高齢者の方のやっていただきたいことに手が届くサービスが売りとなる事業としています。また、高齢者の方々が作られた農作物の販売にも対応できればと思いますが、今回は身の回りの対応に限定した案とします。

(4) 臨時収入による問題点

一方、仕事を請け負う60歳未満の若い世代の人たちは、臨時収入もあり、生活が潤います。面倒なのは確定申告です。兼業で農業をされている方が多いので、その方々はいいのですが、サラリーマンの方にとっては、その手続きは大変です。この作業を緩和す

るため、高齢者からの仕事に対して得られた収入に対する納税は免除するなど国や県、市町村が絡む必要があり、請け負う人の負担を少しでも軽くする必要があります。

(5) 高齢者の一番望むことは

聞き取りや自分の祖母の回答から、会話が大切であることが分かりました。元気で過ごされている夫婦であればいいのですが、一方が痴呆症になれば、話す回数も減ると言われています。また、相手の方が亡くなっておられる方であれば、何日も人と話をしない方もおられるということも聞きました。

このような方には、子ども世代の方からの依頼やふるさと納税で得られたチケットにより、若い世代の方の訪問で、会話ができ、生活が潤うと感じます。仕事に行く若い世代の方は、できれば話の上手な方、コミュニケーション能力の高い方の派遣が望まれます。なかなかマッチングは難しいと考えられますが、そこはクリアーしていかなければならないところです。

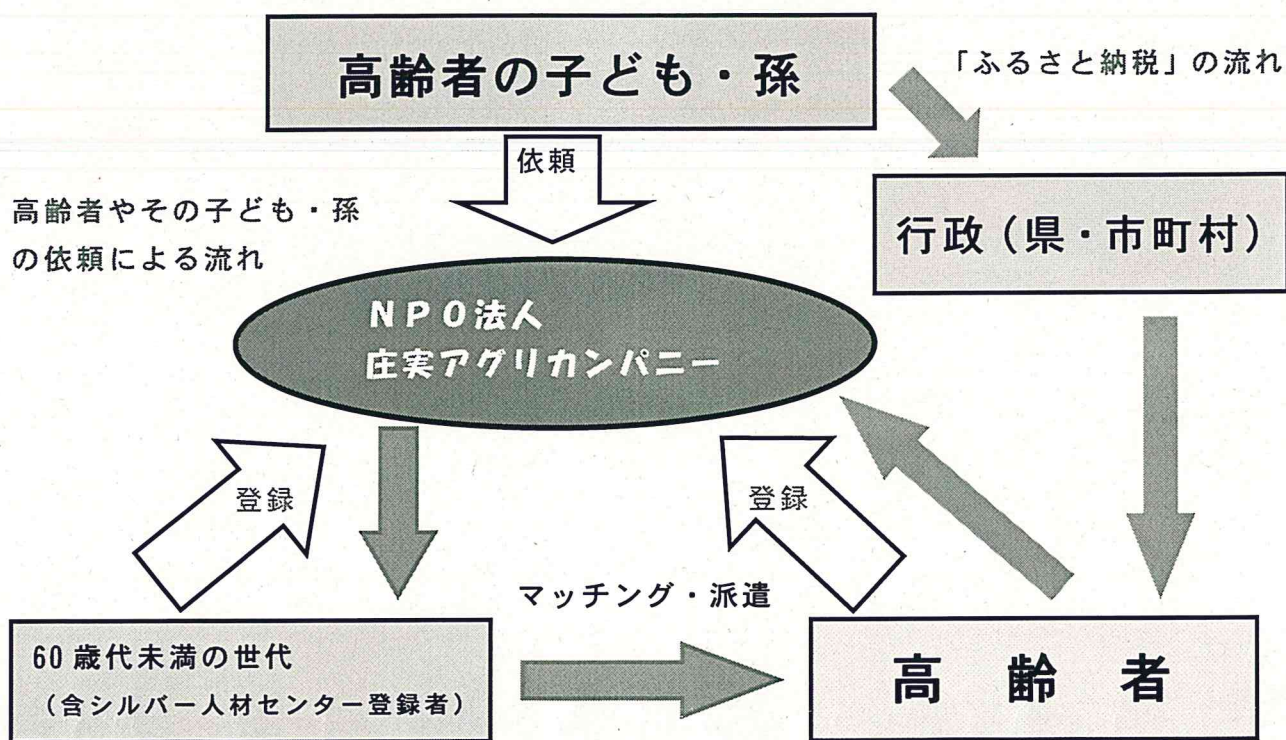


図1 事業のイメージ図

4 おわりに

全国に存在する庄原市のような中山間地域の高齢化率は高く、今後の高齢者の生活に対し、地域の人をはじめ、高齢者の子ども世代の方々など、不安を抱えている人が多い。私たちが考えている高齢者の生活の安定を図る見守り隊は、少しでも地域で生活するに当たっての不安を解消できるのではと思います、考えたものです。

私たちは、このコンテストをきっかけに地域のことを深く考えるようになりました。これからも地域に住むということを頭の片隅に入れながら、より良いアイデアを模索し続けていければと思います。そして、いつの日か私たちの考えたアイデアが、社会で活用され、高齢者が安心して暮らせる社会の実現が図られればと思います。